

## 議論・ご意見部分のみ記載

日時	2026年6月9日(火) 19:00~21:00
会議名	第2回 田原市学校未来創造計画改定委員会

### 1. 地域及び小学校・保育園保護者を対象としたアンケートの結果について【資料1】

- ご質問・ご意見等あればお願いしたい。(松尾委員長)
  - 特にご質問等はないようなので1点だけ補足であるが、P3回収数については学校別に見ると回収数が1桁等少ない。その点も踏まえ改めて資料をご確認いただきたい。(松尾委員長)

### 2. (令和7年度)アンケート調査結果報告書について【参考資料1】

- 内容は変わっていないが、前回のご指摘を受け、各設問の小学校区別集計について、表形式だったものをグラフ形式に修正した。(事務局)
  - 小学校区別グラフについても全体円グラフと色味を統一していただきたい。その他、委員皆様からご意見やご感想があればお願いしたい。(松尾委員長)
  - データ、アンケートいずれの結果を見ても、統廃合について1日でも早く具体案を考えていった方がいいのではないかと感じた。(委員)
  - 2キロという通学距離は、親としては心配な距離である。徒歩で20分~せめて30分以内であってほしい。(委員)
  - P35統廃合について、地域住民の方がかなりの数統合した方がよい、というご意見だったことが意外であった。(委員)
  - 基本的に回答数が少ないと感じた(特に地域住民の回答が少ないため、1票の重さを感じる)。また、現在既に統廃合に向けて動いている大草の保護者から統廃合必要なしの回答が50%もあったという点に驚いた。(委員)

### 3. 田原市学校未来創造計画の素案について【資料2-1、2-2、2-3】

- ご質問・ご意見等あればお願いしたい。(松尾委員長)
  - 資料2-2、P10「これまでの学校再編から見えてきた課題」の中で、児童生徒への影響として先生の目が行き届いていないというご意見があった。私自身、小学生と保育園児の子供を持ち、下の子は1学年5人という少人数で小学校に上がることになっている。上の子(1学年35人)と比べ、下の子は先生の目が行き届くという安心感を持っており、人数が少なくとも少ないなりにメリットがあると感じている。(委員)
  - 小規模を維持した場合のメリットが明示されていないということと理解した。再編をするにあたっての課題の中で記載してはどうか。(松尾委員長)
  - 検討させていただく。(過去統廃合した学校保護者に対し統合後実施したアンケート結果のご意見であるため、小規模を維持した場合のご意見が入っていない)(事務局)
- 資料2-2 P7、児童数の資料を確認すると、亀山小学校の児童数が一番少ないものの、これまで取り組み(協議された実績等)が資料には明記されていない。これまでの状況を伺いたい。(委員)
  - これまで、亀山校区から市へ正式には一度も要望がなかった。保護者、地域の方々等、現状の学校の在り方で充足しているという判断である。(事務局)

- 資料 2 - 2、P 2 8 の中で「必要に応じ」という記載があるが、現状、学校や地域側が必要と感じた際には市へ相談する流れになっており、これまでそういった相談が一度もなかったという状況である。この後の話に出てくるが、今回の改定案より、ご意見が出てなかったとしてもある一定のレベルを下回った際に協議会を設置する改定案が出されている。（松尾委員長）
- 少人数校区の保護者としての補足であるが、清田小学校と亀山小学校間は交流が盛んなため、保護者としては、こういった少人数ならではのメリットを感じている。（委員）
- 統廃合せずとも、交流を盛んに行うことにより、ある程度の規模を維持した行事が行えているということ理解した。（松尾委員長）
- 「魅力ある学校作り」は、現状既にどの学校も取り組んでいるところ。田原市独自の方針として、学校側の対応（ソフト・ハード両面）を示していただかないと、進めていく上で苦しい場面が出てくるであろう。また、資料 2 - 3 に記載された「将来的な学校規模の検討開始」について、ここに主語がなく、具体的な検討に進まないことが懸念される。「協議会」も設置すべきなのでは？（委員）
  - 資料 2 - 3 にも関わるため、資料 2 - 3 の説明をさせていただく。（事務局）
- 通学時間・距離の概念について、距離ではなく時間で考えるという点について、ご意見あれば伺いたい。（松尾委員長）
  - 1 時間以内という点、徒歩も含まれると思われるが、距離として何キロくらいを想定されているのか。（委員）
  - 徒歩の場合、資料 2 - 3 P3 に記載の通り、通学距離がおおむね 3 キロを超える場合、通学費の補助やスクールバスの運行等の検討をする改定案とした。（事務局）
  - 3 キロという距離を子供が歩くのは現実的に厳しい。また伊良湖岬小学校が統合した際は、基準値 2 キロであったと記憶している。（委員）
  - 小学生のお子さんが 3 キロという距離を通学するのは厳しいというご意見ごもっともであるが、2 キロとした場合、市として十分な通学支援ができなくなる可能性がある。現状、2.8 キロ程の距離を通っているお子様がいらっしゃるため、現状に合わせ設定した。伊良湖岬小学校統廃合時の距離設定については、正確には確認が必要であるが、バスを出すか出さないかという基準については 3 キロで設定させていただきたい。（事務局）
  - 現状 3 キロ近い距離を通学しているお子さんについて、炎天下等で特段問題は生じていないのか。現状行っているケア等があれば伺いたい。（松尾委員長）
  - 炎天下での熱中症対策として、児童については、ランドセルをリュックサックに変える、ヘルメットからひさしのある帽子に変える、ネッククーラーを付ける、日傘を用いる等の対策を推奨している。（事務局）
  - 3 キロ程度の通学距離の児童は全体で何%なのか。（松尾委員長）
  - 全体人数は把握できていない（事務局）
  - 私自身の子供（小学生 2 人）は徒歩 10～15 分程度（1 キロ未満）で通学しているが、夏の酷暑は昔と比べると非常に熱く、様々な対策をしても全身汗だくで帰宅する。距離が短くても大変なので、もっと通学距離が長いお子さんに対しては、夏の期間だけスクールバスを出すなどの対策があってもよいのではないか。（委員）
  - この場で答えを出すのは難しいが、現場の校長先生とも協議し、こういった対策がとれるのか改めて検討、次回までに整理したい。（事務局）

- 今後の検討の進め方について、調査の結果、協議会を設置しない可能性もあるのか。（松尾委員長）
  - 協議会の設置は、地域の意向なく設置することは難しいと考えているため、調査のみで終わることもあると考えている（事務局）
  - その場合、協議会の設置を判断するのは実質校長先生が判断されるということか（松尾委員長）
  - まずは市教委で地域やP T A等への意向等を調査し、その結果を広くご議論いただけるよう情報提供をしていく想定であり、学校が協議会設置の判断をするということはない。（事務局）
  - まずは教育委員会で調査を行うと理解した。（松尾委員長）
- こどもの数はこれからどんどん減るため、そこら中で統廃合が議論されその都度統廃合が繰り返されていく、その流れを推し進めているように感じる。小規模特認校や複式学級の話もフローチャートの中には記載があるが、具体的な好事例モデル等があるとよい。統合を繰り返した場合、田原市の小学校がどんどん少なくなっていくが、田原市としてはそれでいいのか。（委員）
  - 記載したフローチャートだけを見ると、どんどん統廃合をしていくイメージを持たれるかもしれないが、決定は教育委員会だけで決めるのではなく、そうなる前に地域の方々に実情をお伝えし、改善の取り組みをしつつ、地域の意向を汲みながら検討していきたい。そういったプロセスを構築したい。（事務局）
- 適正規模の基準を今回は変更しないという点についてまた、また全体を通してご意見等あれば伺いたい。（松尾委員長）
  - フローチャートが今後そのまま正式なものとなった場合、「全体児童が120人未満」はほぼ全てが当てはまるという認識で齟齬ないか。（委員）
  - 120人を基準にすると、ほぼ当てはまることになるが、もう1点、クラス数が6学級以上という基準もあるため、そのどちらかを基準とし、検討していくことになる想定である。1学年1学級を維持できている限りはすぐに統廃合を望まない声が多いため、おそらく「6学級未満」を基準にすることになるのではないかと考えている。（事務局）
  - 統廃合する場合、以前はどことどこが統廃合するか計画まで検討したが、今回もその想定か。（委員）
  - この検討委員会で具体案を議論する想定はなく、計画にも記載しない。（事務局）

#### 4. ワークショップの実施について【資料3】

- 保護者・地域向けのワークショップについて。学校のこと自体もそうであるが、アンケート結果を見ても、統合した場合、もともとの学校区がなくなってしまうためそれによるコミュニティ希薄が懸念される声が出ていた。この点の具体的なご意見を収集していただくとよいと思われた。またWSの具体的な日程が出次第共有されるため、日程があう方にご参加いただけるとよい。（松尾委員長）

#### 5. 次回委員会

- 決定次第ご連絡

以上